

2021年度 外部評価委員会報告書

1. 外部評価委員会の概要

「創価大学自己点検・評価実施規程」第12条第3項に基づき、本学の自己点検・評価活動の客観性、公平性を担保するために、外部評価を実施しました。

全学的な取り組みを対象としたこの外部評価は、2021年度は前年度にご指摘いただいた点を踏まえて、本学が取り組んだ事項を中心に、ご指摘に回答する形式で報告書をまとめ評価をしていただきました。

外部評価委員会では、馬場学長から本学の取り組みについて説明したのち、質疑応答を行い、活発な意見交換を行うことができました。

最後に、各委員よりご講評をいただき、委員会を閉会しました。

外部評価委員会終了後、各評価委員より「外部評価報告書」をご提出いただきました。各委員の評価、提言の概要を公表いたします。

2. 外部評価委員からの主な提言概要

(1) 内部質保証システムの有効性・適切性について

①長所・特色とされた事項

- ・ 新たなグランドデザインを策定し、建学の精神に基づいた大学全体のヴィジョンと中期計画、毎年の学長ヴィジョンとしての事業計画が連携しながら全体が整理され、一体として推進されていることは評価できる。
- ・ 学生参加の内部質保証を推進していることは、大きな特徴の一つだと思われる。「学生参加型教育の質保証研修会」を実施しており、3つのポリシーやラーニング・アウトカムズと授業の関係性等について、浸透の機会を設けていることは評価できる。
- ・ 学生参加型の内部質保証システムは、全国でもほとんど例がなく、「学生第一」を掲げる貴学として、今後注力していくポイントとなることは間違いない。

②課題とされた事項

- ・ ディプロマ・ポリシーの達成度については、学生生活アンケートや卒業生調査でどの程度の達成度があったかを把握する必要がある。
- ・ 建学の精神は学生に十分な浸透が見られるが、ディプロマ・ポリシーについても同様に、周知の方法を具体的に計画することが求められる。
- ・ ステークホルダーの関心事に合わせた情報開示について、「情報の質」の検証においては、アクセス数の増減では計測することはできず、今後、情報の質の定義とそのための新たなK P

I の設定の検討を提案する。

- ・ 「学生第一」という言葉がホームページ上でほとんど出てこないのは残念に感じられる。大学の外から見ても、取り組みがわかるような情報開示が期待される。
- ・ 創価大学を外から見た場合、一言で言うと「玄人受けする大学」と言えるのではないか。学生の声を活かした教育改善の取り組みや、教育だけでなく施設設備も含めた国際的な取り組み、卒業生の幅広い活躍の場等、強みとなる取り組みが数多くある。貴学の強みを幅広い層に対して、よりわかりやすく伝える工夫が必要ではないか。
- ・ 大変多くの会議数が設定されており、働き方改革で会議数等を削減したい昨今の事情に逆行しているように見える。管理職スタッフの働き方改革にも留意し、その上で内部質保証をより着実に実現できる執行体制の構築が望まれる。

(2) 教育研究組織の設置状況と改善の取組みについて

①長所・特色とされた事項

- ・ S G U の採択を契機に、国際性の実現に向けて教育研究組織の改革を積極的に推進し、2021 年にも 5 つ目の海外拠点となる「創価大学ナイロビ事務所」を開設する等、具体的な取り組みが進められていることは評価できる。
- ・ 全国に先駆けてデータサイエンス教育推進センターを設置し、データサイエンス副専攻制度を確立して、「主専攻：経済学」「副専攻：データサイエンス」等、成績証明書および卒業証明書に記載する取り組みを行っていることは特筆に値する。さらに文科省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の認定を受け、「データサイエンス入門」を全学必修、日英両語で開講していることは極めて先進的である。

②課題とされた事項

- ・ 時代の要請を踏まえて、産業界からはどのような人材が求められているのか、変化してきているのか、そしてそれに対してどのように対応しているか、といった観点での考察を深めるための、学内、学外の両面での取組みの改善をお願いしたい。

(3) 教育課程・学習成果について

①長所・特色とされた事項

- ・ ティーチング・ポートフォリオを導入し、2023 年度までに全教員への展開を目指していること、さらに継続的な研修や、ポートフォリオの点検・評価・フィードバックの検討などは、科目レベルのアセスメント・プランのメインになるべき素晴らしい取り組みである。
- ・ 2019 年度に実施した文部科学省の「全国学生調査（試行実施）」からは、「多様な人びとと協働する力」が高い割合で大学から育成されたと回答している。素晴らしい成果であると思われる。

②課題とされた事項

- ・ ディプロマ・ポリシーの達成度を、科目成績を通して把握し、定量的に分析できる体制を整え

ていただきたい。

- ・ 建学の精神の浸透に比べて、ディプロマ・ポリシーの学生への浸透が遅れていることが懸念される。どのように学生に浸透させるのかの機会設定や戦略が必要であろう。全体的には学生のマジョリティに浸透させる仕組みや仕掛けを工夫すればより成果や課題が可視化できると考える。
- ・ 卒業生調査に関しては、卒業生から得られる声の質を上げるためにも、実施方法の見直しやサンプル数を増やす工夫を行うようお勧めしたい。
- ・ 卒業生が如何に、「創造的世界市民」としてスキルを再獲得しながら活躍し続けるのか、ということへのフォローは、活動・責任範囲として認識されていることが確認できなかった。大学経営として、18歳人口の減少に抗うという目的と新たな社会のニーズをとらえて、新たな社会的価値の創造をするという、社会的目的を持ったミッションとして、卒業生が社会の中で価値を生み出し続けることが出来るように、アフターフォローし、メンテナンスしていく、というようなことを、事業の構想として検討してはどうか。

(4) 財政について

①長所・特色とされた事項

- ・ 周年寄付については貴学の尽力そのものであり、学納金の低比率は他大学の追随を許さず、収入の多様化は、まさに安定した財務体質を作り出しており、大変高く評価することができる。
- ・ 学納金比率が低く抑えられており、多様な収入構造を持っていることは、大きな特色である。

②課題とされた事項

- ・ 中長期財政計画やキャンパス整備計画等の中で、今後のアフターコロナをどのように意識していくか（「キャンパスのあるべき姿」と「授業のあるべき姿」とは、車の両輪にあたるものであるがゆえに）が、今後の大学業界においては重要なことと考える。

(5) その他

①長所・特色とされた事項

- ・ 学生主体の大学教育を掲げている言葉通りの評価資料を、学生研修、卒業生調査などから拝見したことは高く評価される。
- ・ 社会人、卒業生を対象とした、通信制を持つ大学としての最大限の特色を活かす教育の新展開、特に顔認証の実現によるオンライン試験の実施などは、全国的に見て最先端の取り組みである。

②課題とされた事項

- ・ 今後の自己点検報告書等において、事前にたてる「計画」で、それが達成されたことをどのような物差し（評価指標）で、どの程度（評価基準）になったら良しとするかを、「計画」自体に盛り込むことを心がけ、エビデンス・ベーストな報告書の作成をお願いしたい。

3. 外部評価委員会を終えて

本学では、外部評価としては、これまでに「スーパーグローバル大学創成支援（SGU）」や「大学教育再生加速プログラム（AP）」などのプロジェクトごとの外部評価、及び7年ごとに実施する認証評価を受審してきました。2020年度に実施した全学的な外部評価は、2013年度以来となり、今後、毎年実施する予定です。

2020年度の外部評価では、翌年度に認証評価の受審を控えていたことから、大学基準協会の大学基準に則った報告書を作成し、それに基づき評価をしていただきました。今回は、前年度の外部評価での指摘事項に回答する形で、本学の主な取組みを報告させていただきました。

委員会では、本学の長所・特色ならびに改善すべき課題など、忌憚のないご意見を賜り、今後の改善に向けた重要な視点を得ることができました。

本学の内部質保証と外部評価を連関させた教育改善の取組みは年々強化されております。今後、PDCAサイクルを通じた改善をより確かにするため、新たな内部質保証サイクルの構築について議論を進めています。ここでは、戦略的かつ実質的な自己点検・評価活動を実現すべく、カリキュラム改正や認証評価の受審時期なども考慮し、その点検・評価の内容、実施組織、実施期間（サイクル）などについて検討しています。ここに、外部評価委員会を有機的に連動させ、評価者からの指摘事項に真摯に向き合い、改善・向上に取り組んでいく所存でございます。

「Soka University Grand Design 2021-2030」に示した「価値創造を实践する『世界市民』を育む大学」という本学のあるべき姿を目指し、年度計画として作成している学長ヴィジョンにおいても、2021年度は教育、研究、SDGs、ダイバーシティの4項目のもと、20の取組みを掲げ実行しました。今後の外部評価では、学長ヴィジョンや年度ごとに重点テーマを定めた評価を受けることも検討を始めており、自己点検・評価と外部評価による改善・向上を図る質保証を一層充実させていきたいと考えています。

学生の学習成果の可視化のより一層の推進、志願者獲得の課題、本学の特徴をより広くわかりやすく伝えるための情報公開やSNSの活用、財政改革など、さまざまな課題に対し、真摯に向き合い、本学の使命を果たしていけるよう、ますます教育・研究改革に取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、ご多忙の中、本学の外部評価委員をお務めいただいた委員の皆様に、改めて感謝申し上げ、あいさつとさせていただきます。

2022年4月
創価大学 副学長
全学自己点検・評価委員会 委員長
西浦 昭雄